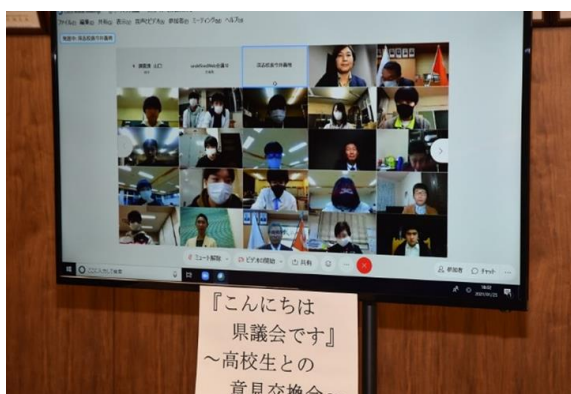


「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」開催概要

- 1 開催日時 令和3年1月25日（月）午後4時25分から午後6時10分
- 2 開催場所 県庁議会棟、県内各地（オンラインによる開催）
- 3 出席者
 - 県下8高校の1～2年の生徒18名、校長、教諭等の学校関係者
参加生徒・・・須坂、篠ノ井、上田染谷丘、軽井沢、諏訪清陵、飯田、松本県ヶ丘、松本深志
 - 小池 清議長、小池 久長副議長
 - 広報委員
共田 武史議員、寺沢 功希議員、清水 正康議員、和田 明子議員
 - 会派選出議員
竹花 美幸議員、竹内 正美議員、高島 陽子議員、花岡 賢一議員、加藤 康治議員、高村 京子議員
- 4 開催内容
プレゼンテーション、グループディスカッション、意見・感想等の発表
- 5 意見交換会の内容
 - 令和2年9月26日に開催された「令和2年度生徒の主体性を育むオンライン交流会」の内容を踏まえ、コロナ禍での高校生の取組を発表し、議員と意見交換を行う。
《テーマ》「夢について」「今後取り組みたいこと」
「政治や議会に望むこと／高校再編について望むこと」
- 6 参加者 42名（議員12名、生徒18名、傍聴者12名（学校関係者含））



○開会

(司会：小池副議長)

定刻となりましたので、ただ今から『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会」を始めます。私は、本日の進行を務めます、長野県議会副議長の小池久長でございます。あわせて広報委員長もやっておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。本来でしたら生徒の皆さんには県庁に来ていただき懇談をしたいところではありますが、世の中の状況がこうゆう状況なので、恐れ入りますが、リモートでさせていただきますとともに、この会には30人近くでやっておりますので、ぜひともご協力いただき、スムーズな会になりますようお願い申し上げます。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(小池副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、小池清議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。それでは、小池議長お願いします。

(小池議長)

皆さん、こんにちは。長野県議会議長の小池清です。よろしくお願いいたします。

本日は、「こんにちは県議会です」の開催に当たり、県内各地より大勢の高校生の皆さんにご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、長野県高等学校長会の皆様には多大なるご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

私たち県議会は、県民の皆さんの思いを県政に反映させたり、県政の適正な執行を監視する役割があり、今回も皆さんの思いを聞くことが大きな目的で、できることでありましたら、皆さんと直接お会いして開催したかったのですが、現下の新型コロナの状況を受けましてオンラインとさせていただきました。

しかし、言うまでもありませんが、オンラインのメリットは、コロナの影響にかかわらず実施できること、また、移動に掛かる経費や時間などが節約できることにあります。今、オンラインの活用は、世界中で加速しています。コロナの収束後もこうした仕組みが上手に活用され、これからの社会に溶け込んでいくのではないのでしょうか。

それでは、少し時間をいただきまして、最近の県議会の主な活動をお話しさせていただきます。

事前にお送りした県議会広報紙「こんにちは県議会です」の149号、青色のものをご覧ください。これは昨年11月に行われた定例会の概要です。

1つは、新型コロナの関係の議論がありました。ワクチン接種に向けた県の取組であったり、医療体制の確保、大きな影響を受けている経済への対策などが質問され、感染防止と社会経済活動の両立について県の対応を求めました。

そのほか、最近では、県独自の特別警報や医療非常事態宣言が出されるなど、新型コロナの感染状況は深刻化しております。そのため県議会では、県民の皆様の声を受けて、随時知事へ要望、提言を行っているところです。

続いて裏面に関しては、DX(デジタルトランスフォーメーション)についてです。DXを支えるために特に人材確保が課題になっており、取組の強化を求めさせていただきました。これに対しては、今後の皆さんの日常生活でのデジタル化にもつながっていくものと考えます。

次に、議員提案による条例制定について触れたいと思います。

お送りしたもう一枚の広報紙、148号、オレンジ色のものをご覧ください。

昨年の9月定例会において、2050年度までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン」達成を目標とした「長野県脱炭素社会づくり条例」が議員から提案され、全会一致で可決しました。

年限を定めてゼロカーボンを盛り込んだ条例は都道府県初となります。この条例の制定を機に、持続可能な脱炭素社会づくりを県民の皆さんの協力をいただきながら、一層推進していきたいと思います。

以上が、最近の主な議会活動の報告です。

結びに、本日の「こんにちは県議会です」は、高校生の皆さんと県議会議員が共通のテーマについて意見交換を行う貴重な機会でありますので、出席の議員は皆とても楽しみにしております。皆さんも、本日の経験を契機として、ぜひ県議会や県政に対する関心をより一層深めていただければと思います。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

○長野県高等学校長会長あいさつ

(小池副議長)

続きまして、同じく主催者である長野県高等学校長会の会長で松本深志高校校長の今井義明会長より、ご挨拶をお願いいたします。

(今井会長)

皆さん、こんにちは。

ただいまご紹介いただきました高等学校の校長会長を務めております松本深志高校の今井義明と申します。

本日は、このような高校生との意見交換ができる機会を開催していただきまして、まずは県議の皆さん、それから、議会事務局の皆さん、誠にありがとうございます。

また、今日、高校生、実行委員長をはじめ、企画、準備、運営まで力を尽くしている実行委員の皆さん、それから、これから参加をする生徒の皆さん、関係の校長先生方のご支援にも心から感謝を申し上げます。

今年はコロナに始まり、コロナに終わる令和2年度といったところです。いまだに収束の見通せない状況ではありますが、コロナ禍であっても、知恵を絞り、様々な工夫と感染症対策を重ねながら教育活動を行っていくという姿勢がとても大事だと思っています。

高校生にとってもウィズコロナの窮屈な高校生活が続いていますけれども、少しでも充実したものにしたい、そういった身近な課題を考えるよい機会になっていると前向きに考えたいと思っています。例えば文化祭をどうするか、修学旅行をどうするか、クラスマッチ、授業、部活動、どこの学校でも生徒を中心に据えながら一生懸命考えてきた1年間になっていると思います。

この新型コロナウイルスに限らず、先行き不透明で解決が困難な課題について、それぞれの生徒が自分の頭で、あるいは自分の言葉で考え続けることはとても大事だと思っています。今日もこういった柔軟でタフな思考の基礎体力を鍛える、そういう大変よい機会になればなと思っています。

県議の皆さんとの意見交換の時間が充実したものになることを祈念いたしまして、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。

今日はどうかよろしく願いいたします。

○出席議員自己紹介

(小池副議長)

どうもありがとうございました。

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。順次、私から指名しますのでお願いします。

まず最初に、共田武史副委員長をお願いします。

(共田議員)

広報委員会の副委員長、岡谷市・下諏訪町選出の共田武史です。よろしくお願いします。

(小池副議長)

次に、寺沢功希議員をお願いします。

(寺沢議員)

安曇野市選出、広報委員の寺沢功希です。どうぞよろしくお願いします。

(小池副議長)

次に、清水正康議員をお願いします。

(清水議員)

こんにちは。上伊那郡選出の清水正康です。よろしくお願いします。

(小池副議長)

続いて、和田明子議員お願いします。

(和田議員)

皆さん、こんにちは。長野市・上水内郡選出の和田明子です。どうぞよろしくお願いします。

(小池副議長)

続いて会派の方から、竹花美幸議員お願いします。

(竹花議員)

佐久市・北佐久郡選出の竹花美幸です。今日はどうぞよろしくお願いします。

(小池副議長)

次に、竹内正美議員お願いします。

(竹内議員)

千曲市・埴科郡選出の竹内正美です。本日はよろしくお願いします。

(小池副議長)

次に、高島陽子議員お願いします。

(高島議員)

長野市・上水内郡選出の高島陽子です。よろしくお願いします。

(小池副議長)

続いて、花岡賢一議員お願いします。

(花岡議員)

佐久市・北佐久郡選出の花岡賢一です。よろしくお願いします。

(小池副議長)

次に、加藤康治議員お願いします。

(加藤議員)

長野市・上水内郡選出の加藤康治です。今日はよろしくお願いします。

(小池副議長)

次に、高村京子議員をお願いします。

(高村議員)

皆さん、こんにちは。上田市・小県郡選出の高村京子です。よろしくお願いします。

(小池副議長)

出席の議員は以上であります。

○進行方法説明

(小池副議長)

では、本日の進行方法について説明します。

本日の、「こんにちは県議会です」は、高校生が県議会を身近に感じ、県政に関心を持つ機会とすること、またコロナ禍の中での高校生の取り組みや県政への意見や要望について、高校生と意見交換を行い、県政に反映させるという趣旨で行うものです。

まず、交流会実行委員長の生徒さんから、つづいて、発表者の生徒さんにプレゼンテーションをしていただきます。

昨年の9月26日に開催された「令和2年度生徒の主体性を育むオンライン交流会」の様子や、感想、反省点等を含め、発表していただきます。

プレゼンテーションが終了しましたら、発表のあった内容をふまえて、各グループに分かれ、意見交換を行います。

予めグループごとに、話し合うテーマを決めてありますので、約30分間、自由にグループディスカッションをします。

なお、予めお願いをさせていただいておりますが、テーマのうち、ひとつは議員から提言させていただきました。

ぜひ、高校生の皆さんから多くのご意見をいただきたいと思いますので、他のテーマと合わせて、各班で意見交換をお願いします。

進行は各グループの担当の生徒さんをお願いします。

意見交換は、結論を求めるものではありませんので、残り時間10分程度のところで、事務局から残り時間のアナウンスをしますので、すべてのテーマについて意見交換を行ってください。

プレゼンテーション終了後、グループ内で話し合った内容を、各グループの発表担当の生徒

さんから、発表をしていただき、議員のみなさんからも感想などをお願いします。

発表時間の目安は、生徒さん3分程度、議員2分程度としておりますので、よろしくお願い致します。

以下同様にして、6班まで順番で発表を行います。

進行方法についての説明は以上です。

なお、広く県民に広報するため、本日の概要については、後日、県議会のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願い致します。

○高校生によるプレゼンテーション

(小池副議長)

それでは、高校生の皆さんのプレゼンテーションを始めます。

初めに、「令和2年度生徒の主体性を育むオンライン交流会」の実行委員長さんから説明があります。

(実行委員長)

長野県議会議員の皆様、こんにちは。

県議会で議員の皆様とお話できることを楽しみにしてはいたのですが、県内で感染拡大によってオンライン開催となってしまう、残念に思っています。実際にお会いすることはできませんでしたが、意見の交換ができればいいと思っております。

9月に行われたオンライン交流会につきましては、この後にやってくれる発表者の2人がしっかりまとめてくれておりますので、そちらを聞いてください。

本日はよろしくお願い致します。

(小池副議長)

ありがとうございました。

それでは、プレゼンテーション発表者さん、お願いします。

(発表者 A)

ありがとうございます。

最初に、プレゼンテーションに入る前に、一つご連絡があります。

プレゼンテーションは、ここから20分くらい読んでいきますが、文章を読んでいるタイミン
グで、この話をもっと聞きたい、ここはどうなっているの?だったり、疑問点などあれば、議員さんにチャットのほうに意見を投げてくださいたいと思っております。投げてもらった意見に関しては、プレゼンテーションが終わった後にこちらから答えさせていただくような形にし

たいと思っておりますので、ぜひどんどん意見など投げただけいたらと思っております。

それでは、プレゼンのほうに移らせていただきます。

(発表者 B)

皆さん、こんにちは。

では、まず、私たちの自己紹介といきたいのですが、普通の自己紹介をしても私たちのことは全然伝わらないなと思って、こんなものをつくってきました。

(発表者 A)

すごいですね。これはどういうものなのでしょうか。

(発表者 B)

これは私たち2人が高校に入って始めた活動の一覧です。具体的に紹介しますと、オンラインで東京のイケてる高校生たちとイベントやプロジェクトをやってみたりだとか、一方で、内閣府に勤めた経験のある方とオンラインで話してみたりだとか。

(発表者 A)

ほかにも、オンラインだけではなく、学校でも休校中に配布されたアベノマスクを集めて寄附したり、生徒会でもいろいろ活動してみたりしているんです。

(発表者 B)

本当は時間があればもっとお話をしたいのですが、話していると1時間くらいしゃべってしまうので、この辺で、後半で時間が余ったらまたお話をしたいと思っているので、楽しみにしていただけると嬉しいです。

(発表者 A)

本日15分から20分という長丁場のプレゼンですが、画面に全集中していただくと幸いです。

(発表者 B)

それでは、早速まいりましょう。

(発表者 A)

では、本日の目次から紹介していきたいと思います。

私たちの伝えたいことを大きく2つに分けてお話していきたいと思っております。

まず、第1章では、私たちが運営として関わった「生徒の主体性を育むオンライン交流会」について行った内容から、私たちが運営に関わって感じたことなどを話していきたいと思っております。

(発表者 B)

そして第2章では、この交流会を通して感じた高校現場に圧倒的に足りてないものについて、具体的な内容からお話ししていけたらなと思います。

(発表者 A)

では、早速ですが、第1章、私たちが運営に関わらせていただいた「主体性を育むオンライ

ン交流会」について話していきたいと思うのですが、まず、主体性を育む交流会について、どのようなものなのかを一通り説明させていただきます。

主体性を育む交流会ですが、毎年、長野県の校長会の先生方で主催してくださっている、今年で6回目のイベントです。例年どおりですと一泊二日の合宿形式で、2日にわたって県内高校生が熱い議論を交わしながら主体性を育んでいくことが行われているのですが、今年は新型コロナウイルスの影響で1日限定、かつ完全オンラインイベントという形での開催をしました。

(発表者 B)

今年は完全オンラインだったんですね。

(発表者 A)

はい。

(発表者 B)

何かほかのイベントにはない特徴が、この「主体性を育むオンライン交流会」にはあったと聞いたのですけれども、それは何でしたっけ。

(発表者 A)

ほかのイベントにはない3つの特徴を挙げさせていただくと、まず、1つ目は、生徒だけでゼロからイベントをつくっていくという点です。主催は、先ほどもお伝えしたとおり、県内の校長会の先生方なのですが、実際にイベントを企画して実行しているのは全て高校生でした。先生方はあくまでサポートという位置づけになっているんですよ。生徒にこんなに任せてくれるイベントは少なく、私たちも驚きました。

(発表者 B)

最初に聞いたときは学校主催のイベントなんて聞いたので、先生から言われたことをやるようなイメージが強かったので、やはり生徒に全部任せてくれるということが新鮮でしたね。

(発表者 A)

はい、新鮮でした。

そして2つ目の特徴は、学校の枠を超えているということです。ふだんの生活をしているとあまり関わることのないほかの学校の高校生と交流ができたのも大きな特徴であり、メリットだったと思っています。

(発表者 B)

そして3つ目、これは今日一番話したい内容になってくるのですけれども、これは今年だけの特徴、準備から実行まで完全オンラインだったということです。イベントの企画から実行まで全てがオンラインで行われました。なので、今日来ている高校生の実行委員会の中でも実際に顔を合わせて話したことがある人なんてほとんどいなかったりなんてしています。

(発表者 A)

今日もオンラインになっちゃいましたね。

(発表者 B)

そうですね。初めて実行委員会と会えるいい機会だなと思ったんですけども。

(発表者 A)

そうですね、できなかったですね。

(発表者 B)

今日は今年から始まったオンラインで最初から最後まで企画を行ったということに関して、苦勞などを加えながらお話をしていきたいと思います。

(発表者 A)

では、早速話していきましょうという前に、僕たち実行委員がどんな立ち位置でいたか説明して、誤解を招かないようにしてから始めさせていただきます。

僕たち実行委員会は1枚のプリントで校長会の先生方から募集されて、全4回の会議に参加しました。その中でほかの実行委員会のみennaとイベントの中身を決めて、最終的に交流会の参加者を募集して、1日限りのオンラインイベントを開催した、このような形になっています。

(発表者 B)

早速本題に移っていきましょう。

まず、僕からA君にクエスチョンです。なぜ実行委員会に応募したのですか。

(発表者 A)

この交流会の実行委員会の募集のお知らせがプリントの端っこのほうに記入してあったわけですね。たった1枚のプリントだったんですけども、プリント1枚で、交流会の様子なんて全然分からなかったんですけども、面白そうなんて僕は思って。

(発表者 B)

面白そうですか、結構大胆ですね。

(発表者 A)

単純な、面白そうという興味だけで応募することを決意しました。新しいことをするとき何のためにするのかということをつえがちですが、単純な興味だけで参加してみるのも今ではありだな、と思っています。

(発表者 B)

このような感じで、単純な興味だけで実行委員会に入った僕たちなのですが、最初に説明したとおり、準備されていた大きな会議は4回ありました。そのうち第1回目の会議では各高校から集まった実行委員会との顔合わせをして、第2回では全体を統括する役員を決めました。僕たちを含め、実行委員の中から5名はその役員に立候補しました。そして役員が決定して本格的に高校生だけの活動が増えていったんですけども、そこで重要なことが発覚しちゃったのです。

(発表者 A)

重要なことですか。

(発表者 B)

はい、重要なこと、それはこの交流会は、まじで何も決まってないということです。役員になったはいいけれども、交流会のテーマから、当日何について話すのかとか、ほかにもどのくらいの規模でやるのかとか、そういうことが本当にゼロから自分たちが決めなければいけなかったんですね。僕はここで、これはさらに面白いと思って、本気を出して、「主体性を育むオンライン交流会」に関わっていきます。

ゼロから始めたということで、テーマは全然決まっていなくて、実行委員会のみんなでどんなテーマがいいかなと2回、3回と話し合いを重ねていき、最後に決めたテーマは、今画面に出ているように「夢」です。

何で夢にしたんですか。

(発表者 A)

県内高校生が集まるこの機会に、何について話して、そして参加してくれた人に何を感じてほしいかをまず考えていきました。そして将来の夢が決まっている人って本当に少ないよね、という声の実行委員会の中から出てきました。学校でも授業でも、夢について話すとか、今の状態ではないじゃないですか。

(発表者 B)

そうですね。でも社会に出たら夢があるってとても大事なことですものね。

(発表者 A)

だからこそいろいろな人の夢を聞いたり話したり、自分の夢を話したりすることが今は大事なのではないかと思ったんですね。

そしてこのテーマに決めたことでイベント全体の内容がだんだんと決まってきました。

(発表者 B)

イベントの前半では、「聞く」の時間として人生の先輩から夢を聞いてみようというテーマにしました。各分野で活躍している社会人の方から、何でその職業にしたんですかとか、どのタイミングでその道に進むことを決意したのか、という話をお聞きして、とにかくすごい人の夢を聞こうという時間にすることになりました。

イベントの後半のほうでは、自分の夢を同世代の参加者たちと話し合っ、言語化してみようという時間にすることが決まりました。

(発表者 A)

そんな当日までには、準備をする中で問題がたくさん出てきました。

(発表者 B)

問題点とかはいろいろあったんですけども、あまり役員だけに偏ってしまったりして、み

んなが話している内容がよく分からないよということになってしまったので、オンライン会議をしながらも、どんな話をしているのかをリアルタイムで共有してみたりだとか、そういうことをしてみました。ほかにもいろいろな問題点とかはあったので、もっと聞きたかったらチャットに書いていただければ嬉しいです。

(発表者 A)

そんな感じでだんだんと会議を重ねて、様々な問題を乗り越えながら着実にイベントをつくっていきました。1万字に及ぶ当日のシナリオ、向かって右側ですかね。

(発表者 B)

ありますね、はい。

(発表者 A)

シナリオをつくったりだとか、講師の方との連絡など大変なことはありましたが、無事イベント当日を迎えることができました。

(発表者 B)

イベント当日は先ほど説明したとおり、「聞く」と「話す」の時間に分かれて行いました。前半の「聞く」時間では、お呼びした5名の講師の方から夢について聞きました。会社の社長をお呼びするなど、ふだんなら絶対に聞けないような方にも話が聞けて、とても有意義な時間になりました。

(発表者 A)

こうして交流会を無事やり遂げたのですが、この交流会を通して、オンラインで同世代の高校生でもいろいろな特技を持った人や、自分の高校にはないカーリング部なんていう部活に入っている人がいたり、自分たちの知らない世界というものをたくさん知ることができました。自分の知らないことを知ることができるオンラインをやってみて率直にオンライン活動は楽しいな、なんて思いました。

(発表者 B)

しかし、オンライン活動を楽しみな、面白いなと感じたと同時に、企画を進めていた2か月間、県内のいろいろな高等生とお話をする中で、県内高校のいろいろな現状が見えてきたんですね。

(発表者 A)

ということで、次の章は「私たちの求める高校改革」と題しまして、交流会を通じて見えてきた県内高校のオンライン事情を知ってもらい、私たちが日々肌身で感じているオンラインの課題を皆さんに感じて持ち帰ってもらいたいと思っています。

ここからは私たちの思いを精いっぱいお伝えしますので、前半は、私たちがずっとしゃべっているような形式になってしまって少し退屈だったのかなと思うんですけども、これからも私たちの思いを熱く語っていくので、全集中でどうかよろしく願いいたします。

チャットのほうも質問や、感想でもいいので、書き込んでいただけたらと思っております。よろしくお祈いします。

(発表者 B)

それではいきますね。先ほどはこの交流会をオンラインでやったことでいろいろな人が知れてオンラインって楽しいとお伝えしましたが、実はもう一つ、交流会を通して感じていたことがありました。それは、これからオンラインって基礎になるぞという話なんですよね。

(発表者 A)

はい、今の社会全体をマクロの視点で見えますと、既に卒業論文はオンライン提出になっていますし。

(発表者 B)

今のコロナ禍ではリモートワークなんて当たり前になっていますよね。デジタル機器がただ使えればいい時代はもう終わっていて、デジタル機器を活用する時代に移行してきていますよね。

(発表者 A)

はい、そんなオンライン必須時代の中、高校でのオンラインはどのように使われているのでしょうか。その活用事例を私たちの通っている高校の今年のオンライン文化祭を例に紹介していきたいと思ひます。

私たちの高校なのですが、今年度、コロナウイルスの影響の中、何とか文化祭を中止せずにやることできないか、その方法を模索して、何と異例の文化祭をオンラインで開催するということを行いました。

(発表者 B)

オンライン文化祭という言葉は皆さんも一度は聞いたことがあると思ひますが、しかし、予想していたような生半可なオンラインではありませんでした。具体的にどうやったかというところ、この画面に出ているように、体育館でやっている発表をズームというアプリを使って各クラスにリアルタイムで配信したりだとか、あとはクラスターと呼ばれるアプリを使ってネット上でクラス展示ができてみたりとか、あとは休日に学校へ通わずに家からYouTubeの配信を見て、それぞれの文化祭を楽しんだりしました。

(発表者 A)

感染予防をしながら最大限文化祭を楽しめるよう、生徒自身からオンライン開催を提案し、実行していきました。この活動は大きく評価されて、全国紙へも掲載されました。

(発表者 B)

しかし、全ての高校でこのようなことができたわけではありません。なぜ私たちの高校でこんなにも大成功を取ることができたのでしょうか。一つずつの例から見ていきたいと思ひます。

(発表者 A)

一つ目の例から、体育館から各クラスへ発表をリアルタイムで配信できたというのは、体育館と教室にそれぞれWi-Fiがあったからできたということですよ。

(発表者 B)

全教室にみんなが接続しても大丈夫、使えるくらいのWi-Fiが備わっていましたね。

(発表者 A)

次にアプリを使ったネット上のクラス展示というのも、アプリを全校生徒に入れてもらわないと展示を見ることができません。なので、アプリを全校生徒に入れてもらえるように、全校生徒は一律でiPadを持っていないといけません。

(発表者 B)

みんな毎日iPadを持ってくるというのが日常ですね。

(発表者 A)

さらに休日、家からYouTubeの配信を全校生徒全員が見ることができたのは、iPadがただの貸与ではなく、一人一人の所有物として家に持ち帰ることができたからですよ。

(発表者 B)

そのiPadが貸与ではなくて、所有物になっているのですか、なるほど。

(発表者 A)

私たちの高校の文化祭の成功の裏にはこのようなオンライン機器の環境が整っていたということが大きく挙げられると思います。

(発表者 B)

ここまで見てもらったとおり、私たちの高校はオンライン活動できるだけの機器とか、そしてそれが使えるだけの環境が学校に揃っていたんです。それには当然訳があって、県ヶ丘の場合、この設備は同窓会なしでは成り立たなかったんですね。県からの補助だけではこの土台はつくれなかったということです。

そこでもっと皆さんにリアルな現場を知ってほしいです。

ここまでデジタル機器本体についてのオンライン環境について説明させていただきましたが、アプリの面ではどうでしょう。

(発表者 A)

アプリって、仕事で使うアプリと言われて皆さんが思い浮かべるのはワード、パワーポイント、エクセルではないでしょうか。しかし、現状、今の高校生のアプリの使用は多様化してきています。ざぱり言います。ワード、パワーポイント、エクセルはもう完全に時代遅れ。

(発表者 B)

そうですね。では、高校生が今使っているアプリは何なのでしょう。これからオンライン環境を整える上でハードウェアが注目されがちですが、実際に使うとなるといろいろなソフト

ウェアを使い分ける必要があります。今日は高校生が日常的に使っているアプリを数個紹介させていただきます。どんどんしゃべっていくので、何個知っていたか数えてみてください。

(発表者 A)

実際に「主体性を育むオンライン交流会」で活用したのも入っています。

(発表者 B)

では、まず一つ目です。ミックスドットコムは、これはホームページはもともといろいろコードを書かなければいけないのですけれども、それがコードを書かずにテンプレートで使えちゃうみたいなものです。

(発表者 A)

ズームですね。今日は違うのですけれども、交流会の会議は全部ズームで行いました。

(発表者 B)

はい。ほかにもグーグルという、グーグルは皆さん御存じだと思います。ワードとかよりも、みんなといろいろな共有ができて、一度に50人が同じものを編集しても止まらないとか、そういうことができたりするのがグーグルのすごいところだなと思っています。

そしてグライドです。これは皆さんなじみのない言葉だと思います。実行委員会のみんなもなじみのない言葉だと思うのですけれども、これはアプリがつくれるアプリという感じの、これもまたミックスドットコムと同じように、いろいろな文字を打たなくても簡単にアプリがつくれて、リリースできるよみたいな、そういうものです。

(発表者 A)

今、ばあっと言ってしまったのですが、皆さんどれくらい分かりましたでしょうか。とにかくたくさんアプリを使いこなして、オンラインでもオフラインでも変わらない環境をつくり出していこうと工夫しているわけです。

(発表者 B)

さあ、ここまでで僕たちのオンライン活用が必須ということ僕たちの高校の事例だとか、使っているアプリとかからご紹介させていただきました。

(発表者 A)

では逆に、ほかの高校のオンライン事情はどうなっているのでしょうか。私たちの聞く範囲では、その実行委員会の中の一人の方の学校を例に挙げさせてもらうのですけれども、最近オンライン設備がやっと整ってきたそうです。このコロナの影響で最近いろいろな高校へオンライン機器が導入されているということをよく聞きます。

(発表者 B)

ですが、蓋を開けてみると、Wi-Fiは大人数がつなぐと重くなってしまったり、使えなくなってしまうなんていうことがあったりだとか、ほかにも新しいタブレット型のパソコンが120台導入されたらしいのですが、これも1人1台導入には全くかなってなくて、当然、

校外への持ち出しもできない状況になっています。

(発表者 A)

こんな状態では、幾らタブレット端末を導入したといっても、こういったタブレット端末やパソコンに触れる機会というのはあまり変わっていない、そんなふうに思いませんか。

ほかにも補助金を使ってオンライン機器の導入はしてみたけれども、生徒は初めて使う機種で、どう使っているかわからない。ましてや先生も使い方が怪しい、なんていう学校も聞いたりもします。

(発表者 B)

だんだん終盤に近づいてきました。とにかくこの現状をまとめてみますと。

(発表者 A)

機器の導入ばかりが先行していて、何に使うか、どう使うかが見えていないというのが現状だと思えます。コロナ禍でオンライン機器を入れなければいけないから入れる、こうなっているからこそ、先生が何に使うか見えていないし、実際はただ入れただけになって終わってしまっている。だからこそ、もっと私たちの声を聞いてほしい、そんなふうに思います。

(発表者 B)

オンラインとかデジタル機器は詳しいと思っています。機器を導入しろと言われたから導入するのではなく、しっかり目的を持った導入にするために私たちの声を聞いてほしいです。

(発表者 A)

ここまで長々としゃべってきてしまったのですが、僕たちの声を聞くというような、今回のような貴重な会を開いてくださり、ありがとうございます。

(発表者 B)

ありがとうございます。

(発表者 A)

僕たちの身の回りでも、県議会議員さんとお話をしたいという方は数え切れないほどいます。

(発表者 B)

このような高校生の声を聞く会を僕たちから今度はつくれたらいいなと思っています。またお話をさせてください。

(発表者 A)

今回は2つの章に分けて話をさせていただきました。

ここからはまとめという感じでいきたいと思います。

1つ目は、今年の交流会は、いろいろな準備を重ねて、「話す」と「聞く」の交流会になったこと。

(発表者 B)

そしてその交流会をやって感じたことは、オンラインって楽しいということと、オンライン

はこれからの基礎になるということです。導入だけに終わっていて、活用できていない学校現場をお見せしました。

(発表者 A)

これから僕たちは声を届ける活動をしていきたいなと思っています。

この後、グループに分かれた後、あまり話せなかった夢についてやほかの学校のオンライン事情とかを話せればいいなと思っております。

これで私たちの発表を一度閉じさせていただきたいと思っております。

(発表者 B)

このたびはご清聴いただき、ありがとうございました。

(発表者 A)

ありがとうございました。

チャットのほうを何点かいただいているので、お答えしたいと思っています。

まず、1つ目、プレゼンをどこかで学んだのでしょうか。

(発表者 B)

プレゼンは、高校生になってから学校とかで使うことが多かったりして、そういうところで学んでいたんですけども、ほかにも小学校、中学校とかで児童会とか生徒会のときに学ぶ機会があったりだとか、僕は個人的にいろいろテクノロジーが好きなので、そういう系のことを普通に単純にやってみたいなと思っていて、これからプレゼンテーション検定を取りたいなと考えています。

(発表者 A)

そうですね、僕もやはり高校に入ってからプレゼンをつくることが多くて、オンライン活動でも月に1回、少なくとも2か月に1回はプレゼンをつくっているような状態で、今もいっぱいプレゼンがたまっています。誰かのプレゼンを見てもいろいろなことをそこから学ぶみたいな感じで、だんだんうまくなっていったような感じですね。

(発表者 B)

そして2つ目ですが、機器の得意な人と不得意な人がいると思いますが、活用頻度の個人差はありますか。

(発表者 A)

これは学校での活用頻度ということでよろしいでしょうか。

そうですね、学校での活動頻度ということで、ふだんの活動で学校でオンラインを使うとなると授業でロイロノートというアプリを使って提出物を簡単に前の黒板に共有できたりだとか、自分の手元に書いたものを写真に撮って前の黒板に映したりということが行われているんですけども。

(発表者 B)

活用頻度の個人差というのはやはり結構あるかなと思っていて。

(発表者 A)

でも授業内での活用頻度だったり、学校で個人的に僕たちのオンライン活動というところは個人差というのは感じてしまうのですが、学校の中での授業などでの活用につきましては、やはり1人1台iPadを持っているのですが、貸与という形で毎日家に持ち帰ったりすることができるので、皆さん、パワポとか、そこら辺はしっかりと使えますし、それに追加してさっきお話ししたグーグルは全員使えるみたいな状態です。

(発表者 B)

でも実際に文化祭とかになってみるともっといろいろな高度なものも必要だったりして、その辺のすごくできる人はまだ少ないなという僕の印象です。そんな感じです。

(発表者 A)

ほかに質問などある人はいらっしゃいますでしょうか。

時間が少し迫っているのですけれども。

(発表者 B)

このような感じでプレゼンテーションを閉じさせていただきます。

今日は貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

(発表者 A)

ありがとうございました。

○グループディスカッション

(小池副議長)

はい、大変軽快な説明でありがとうございました。それでは、ただいまご紹介いただきました内容も踏まえながら、6つのグループに分かれての意見交換を始めたいと思います。普段、皆さんが考えていることや、高校生の目線による柔軟な発想で、ご意見とアイデアを率直に発言してほしいと思います。

それでは、30分間のグループディスカッションを行いますので、事務局の方でグループ分けをお願いします。

【事務局留意事項等説明】

(1から6グループへの切り替えについて説明、説明の後、グループディスカッション開始)

(グループディスカッション)

○意見交換感想発表

(小池副議長)

皆さん、活発なご意見をいただきまして、まだお話ししたいこともあろうかと思いますが、ここで意見交換は終了し、各グループを代表して、意見交換の内容や感想を発表願います。

それでは、まず1班から発表者さん、お願いできますか。

(1班発表生徒)

はい、分かりました。

雑な今日の資料ですが、共有しながら、やらせていただきます。

まず最初に、夢について話したんですけども、この実行委員会、今3人いたんですけども、その全員がみんなテクノロジーについて興味を持っていると言っていました。プログラミングとか、授業であまり触れていないのでという現状だったり、教育がITに追いついてないよねという、そういう現状なども話しました。

そして今後取り組みたいこととしては、オンライン交流会とか、このような機会がまたあれば参加したいという人がいたり、あとあまり授業でやらない分野とかにも、今どんどん、インターネットとかで何かに触れる入り口というのは入りやすくなっているので、そういうのを意識していきたいという人もいました。

それプラスで、政治や議会について望むこと、今画面の右のほうに出ていると思うんですけども、政治や議会に望むことであったのは、若者の投票率の低さとか政治から離れている現状に対してもっと情報を伝えてほしいという意見や、あとは政治ってこんなに楽しいんだよということをもっと身近に触れられればいいなとか、あとはコロナの状況によって対面で会うことができなくなったからこそ、発信の力が今弱まっているという現状を議員さんからお話を聞いて、もっと身近な、今の近くの議員さんとかから話していきたいなと思っています。

今回は30分という、短い間でしたが、すごくいい貴重なお話をさせていただきました。

僕からは以上です。ありがとうございました。

(小池副議長)

ありがとうございました。

それでは、高島議員から感想をお願いします。

(高島議員)

今、発表生徒さんがよくまとめてくださいましたけれども、私たち議員に、もう少し情報の発信力、また、今何をやっているかということをしっかり整理をして、コンパクトな形であったり、ライブであったり、様々発信の技術を研究する余地があるなというふうに感じました。

高校生の皆さんは本当にテクノロジーへの関心が高いということですが、人とどのようにそれを共有していくかとか、身近な人を大切にしなければそういったことも生かされないという

ようなこともとても気づいているようなので、非常に希望が持てる討論ができたと思っています。ありがとうございます。

(小池副議長)

それでは、2班の発表者さんお願いします。

(2班発表生徒)

僕からも資料の共有のほうをさせていただきたいと思っています。

僕たちも夢について、政治について話させていただきました。

まず、最初に夢についてですが、当日、夢について参加者と話し合った感想などを述べさせていただきました。僕からは、夢は職業でなくてもいいんじゃないかということで、夢というと消防士になりたいみたいな職業と結びつけられているんですけども、職業ではなくて、素敵な大人になりたいみたいな夢でもいいんじゃないかということ話をさせていただきました。

グループ内の生徒さんからは、夢は必要かどうかという話し合いに参加していただいた感想を述べていただきました。夢があると目標になってやる気も出てくるというメリットがある反面、プレッシャーになってしまうというデメリットもあるよねという話を共有させていただきました。

また、ある生徒さんからは、当日、「聞く」のパートで、社長さんをお呼びして話を聞いたのですが、その中でその生徒さんは生徒会長をやっているということで、「トップがいなくても回る組織に」ということがすごく心に残ったというお話をさせていただきました。

話は変わりまして、政治と若者についてという話をさせていただいたんですけども、私たち高校生からの意見としては、やはり固いイメージだったり、政治の政策は若者から離れてしまっている、高齢の方への政策に偏ってしまっているイメージがあるので、僕たちの関心がそちらにいきづらいという意見を出させていただきました。ですが、議員さんのほうから、鶏が先か卵が先かという問題で、投票率が悪いからそういう政策がなくなるんだよという話もいただいて、まず興味を持つことから始めてほしいということをおっしゃっていただきました。

また、解決するために交流会を増やして、固いイメージを取っ払いたいということで、今日行われたこのような話す会を開くことで、もっと身近なイメージ、議員さんから政治を身近なものにしていけたらなというお話をきかせていただきました。

これで2班の発表を終わらせていただきます。今日は貴重な機会をありがとうございました。

(小池副議長)

それでは竹花議員、お願いします。

(竹花議員)

今日は貴重なお時間を持つことができ本当に良かったと思っております。2班の発表者さんがまとめて上手にご指摘くださいましたので、私のほうからは今日一番心に残ったことのお話をさせていただけたらと思います。

やはり副議長さんのほうから投票にどうしたら若者が行くのかという問いかけがございましたけれども、若者が政治離れをしているんじゃない。逆なのではないか、政治が若者から離れているのではないか。それと私たち議員は固いイメージがあるということで、交流の場をもっともっと持ったほうがいいんじゃないか。ではどうしたらいいでしょうかとお聞きしましたら、講演会とか、お食事をしながらのお話も良いのではないかとということで、本当にこれからこういった機会をどんどん設けて、若者に夢と希望を持っていただけるような長野県にしていかなければならないと思いますので、オンライン会議等も引き続き、また副議長さんを先頭にやっていたら、そんなふうに思った感じでございました。

皆様、お疲れさまでございました。

(小池副議長)

それでは、3班の発表者さんお願いします。

(3班発表生徒)

私たち3班は、まず夢について振り返ったんですけれども、当日はあこがれの人を探したり関わることで夢に近づくとか、もっと自分の夢を身近なフランクに言える場所があるといいなというふうに当日の話した内容を振り返ったり、あと議員の方々に議員になったわけみたいなお話を伺って、もともと別な仕事をなさって、政治を変えたいなと思って議員さんになった方々、こういう夢の持ち方、将来の設計の仕方もあるんだなというふうに改めてまた夢について考えが深まったなと思いました。

あと9月のイベントから、自分が今後取り組みたいなと思ったことのもちめとしては、今回話し合ったメンバーは、みんな9月のオンラインのイベントを通して、どんな形であっても、みんな次の行動とか、どういうアクションを起こしていきたいか、みたいなことが考えられていて、その9月のオンライン交流会のイベントですごくそれぞれのいい経験とか新しい考えが深められる場所になったなというふうに思いました。

あと、最後に、政治や議会に望むことについて話したんですけれども、若者とか高校生の人たちが県議会とか議員さんたちと話す機会があると、もっといろいろな方向に意見とか進んでいくし、若い人が持つ感性とか、そういうものをもっと発信したり話し合える場があるといいなというふうに意見がまとまったんですけれども、個人的に、今日、話し合っているいろいろな意見を聞いてみて、人と話すことは意見が広まるし、すごく楽しいことで、大切だなというのを

改めて感じさせてもらいました。ありがとうございました。以上です。

(小池副議長)

どうもありがとう。

では、共田議員、お願いします。

(共田議員)

ありがとうございました。

先ほど発表した内容の感想といたしまして、まず、私たちに政治に関心を持つとか、投票率を上げる方法だとか、意見交換の場というような意見をいただいたんですが、高校生の今回参加している方々にお伝えしたいのが、私たち議員というものはもっと身近なので、近所の議員に声をかけてください、しっかり話は聞きますと。今回のように皆さんからいただいた意見は、恐らくこの中の誰かの議員が次の2月議会に一般質問で取り上げると思います。そういった状況も見ていただきたい。そしてそれに対して県や教育委員会がどういうふうに反応してくれるのか、対応してくれるのか、そういうのを見てもらおうと、一連の民主主義、議会というものはどういうものか、議員というものはどういうものか、分かっていたらと思います。

今回、こうした高校生の話を聞かせていただいて、今の高校生が考えていること、そしてこの中に隠れている新しい課題や可能性というものを見ることができました。本当にありがとうございました。

以上です。

(小池副議長)

それでは、4班の発表者さん、お願いします。

(4班発表生徒)

4班では、まず夢について、夢は、夢イコール仕事ではないというふうな意見が出て、そういうふうになったときに、ではどういうものとして考えていくかという話し合いになり、僕も夢は別に仕事ではなくてもいいから、少しでもなりたいものだったり興味があるものでもいいというふうになって、こういうふうな夢についての考えを広げていくためには、まだたくさんの知識だったり、経験だったりを多くしていくということが大切だというふうな意見になりました。

そして今後していきたいこととして、たくさん知識や経験を得るために活動を活発に行ったり、今回のこういうオンラインの活動みたいなことに対してどんどん挑戦していきたり、自分で意見をいろいろな人と交換したり発信したりして、とにかくどんどん自分から活発に動

いていくことが大切だというふうになりました。

最後の高校再編については、再編で各学校の合併だったりという取組が今後されていったり、既にされているところもあるんですけども、ただ高校再編で、高校が合併するという一つの手段もあるんですけども、その中で各学校の良さだったり特色だったりが消えてしまうのではないかというふうになったので、この中で各学校の大切な部分を残しながら、そういう対策をとることが大切だという意見になりました。

以上です。

(小池副議長)

どうもありがとう。

では、寺沢議員、お願いします。

(寺沢議員)

高校生の皆さんのお話を聞いていますと、皆さんから共通して出てきたのは、今回のオンライン交流会に出てかなり刺激を受けた。社長さんの話を聞いたりだったり、あるいは先ほどプレゼンしてくれた発表者さんたちのトーク力であったり、それから、機器を使いこなす、アプリを使いこなす技術だったりというのは本当に刺激になったようで、皆さんにとってはいい交流会だったのではないかというふうにひしひしと感じてきました。

特に印象に残ったのは、先ほど4班の発表者さんからも発表がありましたけれども、夢と目指したい職業、仕事は違うんだということが本当に印象に残りました。それは別でもいいんだ、そして夢を持ち続けなければいけないんだなというふうに思いました。

私も改めてそんな意見を聞いて、いつかジャニーズ事務所に入れるという夢を持ち続けながら、堅苦しくない議員としてしっかりと仕事をしていきたいと思います。また、ゆっくり意見交換をしましょう。本日はどうもありがとうございました。

(小池副議長)

5班の発表者さん、お願いします。

(5班発表生徒)

まず、夢についてから語らせていただきたいのですが、我々の班ではほかの話で盛り上がり、あまりまとめられなかったのかなというのがあるんですけども、まず、夢ですが、夢は、2人の議員さんからお話を聞いて、小さいころにどんな夢を持っていたとしても、例えば大人とか成長していく過程で、そのとき、そのときに興味を持ったものについて夢を持つことが大事だよということと、ある議員さんが、最初の年はサラリーマンとか、社会に出ていっ

て働いていたけれども、今は議員となって活躍しているという話を聞かせていただきました。実際、9月の交流会のとき、講演をしていただいた社長さんから聞いたお話で、その社長さんもそのようなお話をされていて、小さいころ、たしか野球選手になりたかったみたいなお話を聞いて、あ、なるほどと、夢はいつになっても変わっていくものだなということが分かりました。

引き続き、今後コロナ禍で取り組みたいことについて、議員さんからすごく頼もしい言葉を聞いて、まずは一人一人がしっかりと対策をするということですが、まず「コロナにかからない」という大前提で、とりあえず高校生の僕たちにはかからないことを最優先で、地域のこととか、そのほかのことについては議員さんにお任せしましょうという頼もしい言葉を聞いて安心したなという感じがあります。

最後に、高校再編に望むことについて、やはり少子高齢化の関係で過疎化になってしまう地域は存在して、長野県には結構それが多くあるのかなというイメージが自分の中ではあって、その中で地域格差とかもあって、さっき松本県ヶ丘高校は生徒一人一人にタブレットがあるというふうにお話しされていたんですけども、全体的に東信の高校はそういうのがあまりないのかなというふうに思っていて、僕の高校でもプロジェクターがあるくらいで、生徒が学校の時間内にそういうデバイスを使うというのは本当になくて、ああ、こういう格差とかがあるんだとか、やはりこれからどんどん少子高齢化になっていくので、高校再編については未来のことをしっかり考えてやっていかなくてはいけないんだなというふうに思いました。

長々と申し訳ありません。僕の話は以上です。

(小池副議長)

どうもありがとう。

それでは、清水議員、お願いします。

(清水議員)

お疲れさまでした。

僕の班は花岡議員と私、清水が議員として参加させていただきました。今、5班の発表者さんのほうから発表していただきましたが、割とテーマとは別の話で盛り上がったというようなところがありました。その中で、議員の活動について率直な質問というのが幾つかあったのかなというふうに思います。それぞれ花岡議員と私のほうで回答させてもらいましたけれども、あえてどんな回答をしたかというのは発表しませんが、最後に、議員さんの仕事は思った以上に大変なんだなというのが分かったという感想をいただいたので、そういった内容の回答をしたと、ご理解いただければと思います。

今日は大変貴重な機会をいただきました。こういった形で若い人たちに議員の仕事とかも知

っていただきながら、政治に関心を持ってもらって、ぜひ皆さん、大きくなったら議員とか、そういった政治の仕事にも就いてくれる人が一人でも二人でもいてくれたら嬉しいな、なんていうことを思った意見交換でした。皆さん、ありがとうございました。

(小池副議長)

では、最後になりますけれども、6班の発表者さん、お願いします。

(6班発表生徒)

まず、夢について話し合った結果、夢についてと言っても、くくりがでか過ぎるので、将来の進路だとか、なりたい職業について話し合いました。僕自身もなんですけれども、正直言ってあまり決まっていなかったりとか、考えてもあまりはっきりしないという意見が上がっていて、それについては加藤議員からは、決まっていなくても、まずはあせらずに、いろいろな交流とかそういうものを大切にしていって様々な力を結集していってほしいというお言葉をいただきました。

次に、今後取り組みたいことについてですが、まず、全員共通して、学校のこの意見が出ました。生徒会だったり、今後の文化祭だったりとか、そういう意見が出ました。

和田議員からは、自分のことだけではなくて、学校についての取組などを考えていて、とてもすばらしいというお言葉をいただきました。コロナ禍という特殊な環境の中でもオンラインなどの工夫などをして、とても大変なことをしているというお言葉をいただきました。皆さんの意見をよく聞いて取り組みたいという姿がとても素晴らしいと言ってくださいました。

最後に、高校再編について、望むことについて話し合いましたが、まずは学校再編で、学校を統合したときにその学校の文化が失われるのが怖いという意見が出ました。これは僕自身の意見なんですけれども、やはり学校などを統合したとしても、その学校のよい部分がちゃんと残るように、そういった工夫が必要だと思いました。そして僕の高校は小規模校ですけれども、そういった小規模校でも、生徒や教職員の皆さんが工夫して魅力化に努めて、この高校に何とか興味を持ってもらってほしいなという気持ちがあります。

以上が6班で出た意見です。

県議会議員の皆さん、私たち長野県民のために日々ご活動していただき、本当にありがとうございます。今後ともどうかよろしく願いいたします。

以上です。

(小池副議長)

どうもありがとうございます。

では、和田議員、お願いします。

(和田議員)

皆さん、お疲れさまでした。

短いグループディスカッションだったんですけども、3つのテーマを手際よく進行役の方が進めていただいて、そして議会から参加させていただいた加藤議員、そして私、それから、校長先生の意見もきちんと聞いていただいて、ありがとうございました。

そういう中で、今はコロナの下でこういうふうにオンラインでつながってできることを頑張っている姿もすばらしいけれども、次の年の文化祭などにはぜひオンラインではなくて、実際につながりたい、そういう気持ちも伝わってくる意見も聞くことができました。つらいコロナの中でも新しいことに挑戦しながら、それでも本当は生でつながりたい、そんな皆さんと一緒にまたお会いする機会があったらと思います。

今日は本当にありがとうございました。

○主催者所感

(小池副議長)

それでは、最後に校長会の先生と議長から生徒さんの発表につきまして感想をいただきたいと思っておりますので、今井校長先生から、お願いできますでしょうか。

(今井会長)

本日はどうもありがとうございました。コロナ禍にも関わらず、このような県議の皆さんと高校生が意見交換できる機会、さらに高校生の意見に真摯に耳を傾けていただいて、心から感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

おかげさまで、全ての県立高校の普通教室には今年度までに電子黒板をはじめとするICT機器を整備していただきました。また、今年度中に全ての県立高校の普通教室にはエアコンも設置をしていただいて、学ぶ環境としては本当に数年前からすごく変わったなと思っています。県議の皆さんには感謝申し上げたいと思います。

それに伴って高校の授業の風景も大きく変化しています。もう高校生たちの発表やお話から想像できるかと思います。今までのように知識や技能を教え込む授業から、思考力だとか判断力、表現力、こういったものを身につけられるように、今探求的な学びに少しずつ変わっていくという教室です。これから未来は予測できない時代と言われてはいますが、そういった時代を生きていくためにも必要な力が身につけられるように、私たちもしっかりと支援していかなければいけないなと思っています。

生徒からはICTを使い切れてないのではないかという厳しい意見ももらいましたが、ICT機器もあくまでも教育のツールとしてこういった学びが深まるようにしっかりと適切に活用できるようにしていきたいなと思っています。

高校生は、学びは確かに変わっても、まだまだこれから何にでもなれる可能性を持っていますけれども、まだ何物でもない、そういった矛盾を抱えた存在だというふうに思います。自分の人生をより深く、より大きく語れるような人生の構想力といったようなものがしっかりと身につけられるように、磨けるように、学校、教員一丸となって支援していきたいとします。また、県議の皆さんもそれぞれのお立場で、ぜひ高校現場の教育の充実に向けてご支援、ご協力をいただければなと思います。

本日は関係された皆さんに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(小池副議長)

ありがとうございました。

最後に、小池議長から、今回の意見交換会を踏まえての感想とお礼のご挨拶を申し上げます。

(小池議長)

今日は、高校生の皆さん方、率直な意見や一人一人の熱い思いを聞くことができまして、大変うれしく感謝申し上げます。ありがとうございました。

冒頭に、実行委員長、プレゼン発表者さんが代表して学校での生活の状況をお話いただきました。夏に行いましたオンライン交流会や各学校での事業、皆さん方が主体的となって楽しくいろいろな行事に取り組んでおられる様子を拝見いたしまして、大変頼もしく思いました。

コロナの状況で苦労されていることや、またこういった状況を乗り越えられて取り組まれたことは本当に貴重な経験だと思います。

また、グループに分かれての意見交換会では、特に夢について皆さん方熱く語られる様子をお聞きして、私どもも皆さん方の将来を楽しみにさせていただいたところでございます。

まだ現在は学生ということで、将来に向かっていろいろな夢、また、希望を持たれていることだと思います。こういった興味を持たれることをいろいろな体験を通して多くのことを知っていく、非常に大事な時期だと思いますので、ぜひともそういったこと一つ一つを大事にしてまた、そういったことを通した経験を大事にさせていただきたいとします。そしてそういった中での経験を、そして一生懸命そういったことに取り組んだことが本物になって皆さん方の将来の人生をつくっていくことでしょうし、また、将来に向かっての目標になっていくのではないかと、こんなことを思います。ぜひとも頑張ってくださいと思います。

さらには、私たちと今日、貴重な経験をさせていただいたところですが、政治や議会について、皆さん方から率直な意見をいただきました。私どもは皆さん方の住んでいる社会や学校のことも含め、できるだけ皆さん方が生活しやすいように、また、学校生活においても、しっかりと授業が受けられる社会をつくるよう取組をさせていただいているところですが、なかなかそういう機会が少ないことですし、ぜひとも今日のこういった機会を大切にしてくださいよう、

お願いを申し上げたいと思います。

また、学校再編につきましても、それぞれの地域の皆さん方の思いを大切にして取組をさせていただきたいと考えております。

コロナ禍ということで、オンラインで、こういった新たな交流をさせていただきましたが、より多くの方々と交流ができるということも経験させていただいたわけですので、これだけでも大事にさせていただきたいと思います。

新しい時代の高校生の皆さん方の考えを大変頼もしく、また、誇らしくもお伺いさせていただきました。私たち議員も今日の意見をしっかりと受け止めさせていただき、若人の皆さん方の夢の実現のために努力をさせていただきたいと思いました。

今回は、オンラインでの交流ではありましたが、またいつの日か直接会えることを願い、議員一同、日々これからも取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

今日は本当にありがとうございました。

○閉会

(小池副議長)

小池議長、ありがとうございました。

以上をもちまして、『「こんにちはは県議会です』高校生との意見交換会』を終了いたします。参加者の皆さん、誠にありがとうございました。

なお、アンケートにご協力いただきたいと思いますので、後ほど、事務局からメールをお送りいたしますので御協力をお願いいたします。

ぜひ次は県庁でお会いしましょう。さようなら。